



新施設千パンジーの森
8月5日にいよいよオープンします!

ASAHIYAMA Zoo

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

おしえて! どうぶつえんのお仕事

子ども牧場では年に1度のヒツジの毛刈りがおこなわれました。ヒツジは衣を脱いですすしそう。でも飼育係は汗だくだったようですよ。その様子とは?

「どうして、わざわざ毛を刈るの?」

そんなギモンをもつ人、いるかもしれないね。あたりまえのことですが野生動物は毛刈りをする必要がありません。季節の変わり目には夏毛と冬毛が自然に生え替わります。それは家でかわれている犬も同じです。

しかし、1万年もまえから人間に飼いつづけてきたヒツジは毛の生え替わりをしません。それは、人間が羊毛をたくさんとるために、改良を重ねてきたからです。そのため夏の暑さに備え、ヒツジの衣替えは人間がやらなければならぬのです。

子ども牧場では2頭のサフォークを飼育しています。母親のポリーと子どものドリーです。2頭の毛刈りを終えてみて、刈具合に違いが見られたのは、それまでの健康状態が表れてきているからなのです。昨年の一時期、ドリーは体調を崩したことがありました。それが、毛の伸び具合にムラとなって現れたのです。ヒツジの毛刈りは、健康状態のチェックの役目も果たしているのですね。

これからまた1年かけて7〜8cm程度毛が伸びます。2頭の姿も季節ごとに変わっていくことでしょう。牧場で柵越しにその様子と、羊毛の感触を感じてみてください。

毛刈りには専用のバリカンを使います



毛刈り前
フカフカの毛におおわれています



ヒツジのお尻にシッポ見たことがありますか?

毛刈りをされるヒツジは毛刈りをしやすいように産まれたときにシッポを切られています

偶然居合わせたお客さんもヒツジの毛刈りに興味津々



毛刈り後
ご～んな姿になりました
次の毛刈りは1年後。



1頭から刈られた毛は袋からあふれるほど。2〜3キロはあります

にぎわっています! ととりの村

こんなに小さかったマガモのヒナも順調に育っています



6月のある日、ととりの村では飼育してないアオジのヒナが見つかりました。きっと親鳥がネットの網目から入り込んで営巣していたのでしょう。野鳥たちが思わず入りたくなるような、ととりの村の鳥たちをじっくり観察してください。



オレンジがかった黄色
茶色みのあるオリーブ色

メス
オス

やってきました! ジェンツーペンギン



目の後ろの白い線が特徴です!



よろしくお願いします

ペンギン館に新たな仲間がやってきました。名古屋港水族館よりやってきたのは、ジェンツーペンギンの5羽です。今は新しい5羽がまとまって行動していることが多く、簡単に見つけられます。以前は屋内で飼育されていたので、見るの全てに興味津々。フンボルペンギンが営巣しているところに近づきすぎて威嚇されたり、空をとぶ虫を目で追ってみたい。新しい世界を探検しているまっただ中です。

新入りの5羽を含めてジェンツーペンギンは12羽になりました。早くも繁殖の期待をしたいところですが、仲間入りした個体はまだ1才にもなっていない個体ばかり。この幼鳥たちが親になれるのは3〜4年くらいは先だそうです。

ととりの村のマガモのヒナはだいぶ大きく育ってきました。今年はマガモが巣箱を占領してしまつたため、他のカモの産卵が遅れているようです。最近ではマガモの子育てが一段落し、ようやくキンクロハジロが卵をうみ、あなたためていきます。子育てする姿がみられるまであとすこしです。また、マガモの羽がはえかわる様子もみられます。繁殖期をおおると、オスはメスのように地味な保護色になります。一見するとオスメス見分けがつかなくなりそうですが、くちばしの色がちよつと違うので、よく見ると区別できますよ。